

高度精白可能な水稲品種「福島酒50号」の育成

福島県農業総合センター 作物園芸部品種開発科

部門名 水稲一水稲一品種、育種・選抜

担当者 小林恭子・川島史寛・薄瑤子・斎藤真一・菅野拓朗・渡邊滉士・遠藤わか菜

I 新技術の解説

1 要旨

「福島酒50号」は、「五百万石」よりも倒伏に強く栽培しやすいという特徴があり、心白発現率が高く、胴割粒が極めて少なく、50%精米時の碎米率が「五百万石」並～低いいため、大吟醸酒の原料米としても利用できる品種である。特性は以下のとおりである。

- (1) 出穂期は「五百万石」より8日程度遅く、成熟期は「五百万石」より10日程度遅い。育成地では“中生晩”に属する(表1)。
- (2) 稈長は「五百万石」並～やや短い“やや長”で、穂長は「五百万石」よりも短く、穂数は「五百万石」よりやや多い。草型は“中間型”で、耐倒伏性は“中”である(表1)。
- (3) いもち病真性抵抗性遺伝子型は“+”と推定され、ほ場抵抗性は葉いもち、穂いもちともに「五百万石」より強い“中”、障害型耐冷性は「五百万石」より強い“やや強”、穂発芽性は“やや難”である(表1)。
- (4) 玄米の千粒重は「五百万石」並～やや小さく、収量性は「五百万石」並～劣る(表1)。
- (5) 玄米品質は「五百万石」より優る“上下”であり、心白発現率は「五百万石」より高い。胴割れがかなり少なく、50%精米時の碎米率は「五百万石」並～低い(表2、図1、図2)。

2 期待される効果

これまで、本県の栽培環境にマッチした県オリジナル大吟醸向け品種はなかったため、「福島酒50号」が県内蔵元に広く利用されることで、稲作農家の所得安定と県産日本酒の一層の振興に繋がることが期待される。

3 適用範囲

福島県の平坦部

4 普及上の留意点

多肥栽培は倒伏を招くので、絶対に避ける。

II 具体的データ等

表1 「福島酒50号」の特性一覧

組合せ	静系酒88号(誉富士) ×山形酒86号(出羽の里)	
品種系統名	福島酒50号	五百万石
早晚性	中生晩	中生早
草型	中間型	穂重型
出穂期(月日)	8/4	7/26
成熟期(月日)	9/20	9/10
稈長(cm)	81	86
穂長(cm)	20.5	21.7
穂数(本/㎡)	399	373
倒伏程度(0~5)	2.2	2.9
いもち真性抵抗型	+	<i>Pii</i>
葉いもち	中	やや弱
穂いもち	中	弱
耐倒伏性	中	やや弱
耐冷性(障害型)	やや強	弱
穂発芽性	やや難	難
精玄米重 ^{*1} (kg/a)	50.0	58.2
玄米千粒重 ^{*1} (g)	25.8	26.9
玄米品質 ^{*2} (1-9)	4.3	5.0
整粒歩合 ^{*3} (%)	70.4	71.1
胴割粒 ^{*4} (%)	6.8	23.8
心白発現率 ^{*5} (%)	99.3	86.2
碎米率 ^{*6} (%)	7.9	10.7

平成28年～平成30年の生産力検定本調査標肥区

標肥区(基肥窒素0.5kg/a+追肥窒素0.2kg/a)

*1 2.0mmの篩で調製し水分15%で換算

*2 達観調査による1(上の上)～9(下の下)の9段階評価

*3 サタケ穀粒判別器(RCQI10A)により測定

*4 もち米胴割粒透視器(TX-300)を用い200粒調査(軽微なもの含む)

*5 玄米100粒を調査

*6 精米歩合50%(チヨダ醸造用精米機(HS-4)使用)

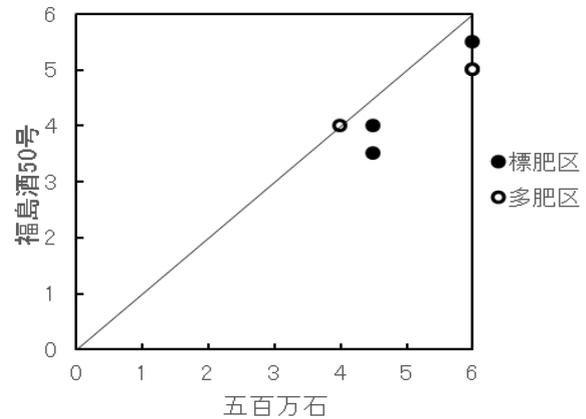


図1 「福島酒50号」の玄米品質
(1(良)～9(悪))
(平成28年～平成30年 場内試験)

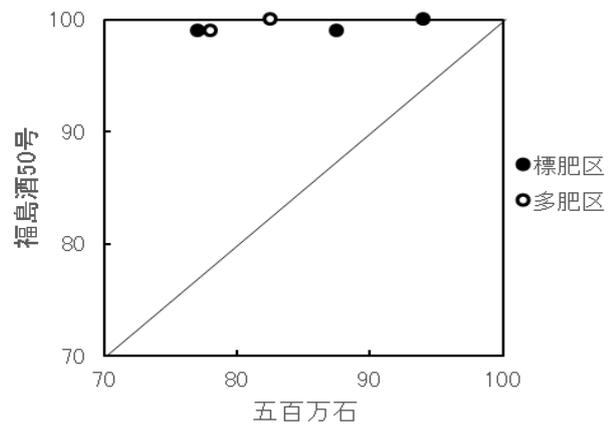


図2 「福島酒50号」の心白発現率(%)
(平成28年～30年 場内試験)

* 標肥区(基肥窒素0.5kg/a+追肥窒素0.2kg/a)
多肥区(基肥窒素0.7kg/a+追肥窒素0.2kg/a)

III その他

1 執筆者

薄瑠子

2 成果を得た課題名

- (1) 研究期間 平成28年度～30年度
- (2) 研究課題名 県オリジナル酒造好適米育成加速化と酒米品質向上技術の確立

3 主な参考文献・資料

特になし